赤崎地区公民館だより

3月号

公民館HP

あかさき

題字　山基洞宗

歳時記

▶二十四節気：春分 しゅんぶん　3月20日～4月3日頃

昼と夜が同じ長さになる日であり、自然をたたえ、生物をいつくしむ日とされています。

- **3月20日～3月24日頃　雀始巣（すずめはじめてすくう）**
  雀が巣を作り始める頃。俳句や民話と、雀は古くから身近な存在。
- **3月25日～3月29日頃　桜始開（さくらはじめてひらく）**
  全国各地から桜の開花が聞こえてくる頃。本格的な春の到来です。
- **3月30日～4月3日頃　雷乃発声（かみなりすなわちこえをはっす）**
  春の訪れとともに、恵みの雨を呼ぶ雷が遠くの空で鳴りはじめる頃。

▶二十四節気：清明 せいめい　4月4日～4月18日頃

万物が清らかで生き生きとした様子を表した「清浄明潔」という言葉の略語。

- **4月4日～4月8日頃　玄鳥至（つばめきたる）**
  ツバメが海を渡って日本にやってくる頃。農耕シーズン到来。
- **4月9日～4月13日頃　鴻雁北（こうがんかえる）**
  冬の間を日本で過ごした雁が北のシベリアへと帰っていく頃。
- **4月14日～4月19日頃　虹始見（にじはじめてあらわる）**
  空気が潤ってくる頃。この時期からきれいな虹がみられるようになります。

暦生活HP

ちょっといい話

▶ 3月24日(日)　楞厳寺にて春のお彼岸巡回布教

『随所に主となれ　自分は自分の主人公である』

臨済禅師の『臨済録』の「主人公」という教えです。生まれたての赤ちゃんでさへ、自分で自分の命を自分の意思で生きています。ところが私達は、主人公である自分を忘れて、お金や物、見栄ばかりを追い回し、欲望とか世間体とかの奴隷のようになり、縛られた状態になってしまう事があります。その事を、ちょうど今、ニュースになっている「依存症」という事例を挙げてお話しされました。より深刻な薬物依存、ギャンブル依存もあれば、自分では気が付かない、あらゆる人や物や事に依存してしまう依存症があります。その「依存症」が自分自身や周りの人々をどれほど傷つけてしまうのか、というお話です。

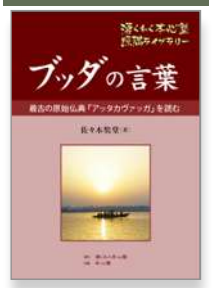
布教師：相国寺派天正寺住職
佐々木奘堂（ささきじょうどう）
住所：大阪市天王寺区勝山1-11-31
生年月日：昭和41年（1966年）1月27日
(天正寺HP 住職・寺紹介より引用)

家族からも見放された深刻な依存症患者が、帚木　蓬生（ははきぎ　ほうせい、日本の小説家、精神科医）先生の精神病院に入院します。先生は、依存症は病気であると認める事が大事だと言います。その病室には鍵はかけられておらず、また逃げ出すのではないかと家族は心配しましたが、先生はこう言います。　「依存症という病気は、患者本人が主治医です」

それは、絶望的な言葉にも聞こえました。さらに先生は、依存症の傾向は完治する事はなく、一生付き合っていかねばならないと言われます。残酷です。しかし見方を変えれば、主治医は自分なのだから、依存しないで居られる1日1日を、一生共に居てくれる主治医（自分）と共に作り出せるという事です。簡単ではないけれど、少し心強い。

お話の最初と最後のメッセージ。東井義雄（とういよしお 兵庫県豊岡市但東町 教育者）の言葉より。

佐々木奘堂師　著書



自分は 自分の主人公
世界でただひとりの 自分を創っていく責任者です
自分の人生を 自分で こわすようなことだけは してくれるな
自分の人生を 自分で 汚すようなことだけは してくれるな

防災 特別寄稿：田中茂信 「ふるさとの防災について考える」 第6回

▶ 高地移転の適地が無かった田老と普代の選択

今年は暖かいと思っていたら3月になっても雪が舞うなど空模様はそう単純ではないようです。さて、3月3日は桃の節句です。新暦の3月はまだ季節が早く、多くの地域で１ヶ月遅れで祝うことが多い。一方、５月５日は端午の節句でもあります。桃の節句にお雛様を飾ることから子供の日は男の子を祝う日だとついつい勘違いしそうですが、あくまで「こどもの日」です。今回は、のびのびになっていた三陸地方の津波の話について書きます。ところで、三陸地方は元々、陸前、陸中、陸奥の3つの国を束ねた呼び名に由来します。津波、高潮、波浪などによる被害から海岸を保全する観点からは三陸北沿岸（岩手・青森県境～鮭ヶ崎）と三陸南沿岸（鮭ヶ崎～牡鹿半島黒崎）があります。三陸南沿岸はリアス式海岸で有名です（図１）。

図１：三陸地方の位置図

明治以降、三陸地方を襲った津波（犠牲者1000人以上）に明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波と東北地方太平洋沖地震津波があります。明治三陸地震津波は明治29年（1896）6月15日（旧暦5月5日）午後7:32ごろ発生した緩やかな長く続く地震により、その30分後に襲った巨大な津波です（規模の割に大きな津波を起こす「津波地震」です）。この日は旧暦で端午の節句にあたり、前年の日清戦争の勝利を祝っていたこともあり死者２万２千人にも及ぶ大きな被害となりました。昭和8年（1933）3月3日午前2:30に起きた地震により、3時過ぎから4時ごろまでに6回ほどの津波が押し寄せており、3064名が犠牲となりました（昭和三陸地震津波）。なかでも第１回の話で触れた唐丹の本郷では人口の半数以上が犠牲となっています。2011年東北地方太平洋沖地震は大津波を引き起こしただけではなく、福島第一原子力発電所の事故も発生し、長く影響が続いています。

さて、岩手県といえば、大谷翔平選手が思い浮かびます。大谷選手は花巻東高等学校出身です。花巻には「雨ニモマケズ」などで知られている宮沢賢治の記念館があります。宮沢賢治は1896年に生まれ1933年に没しており、その短い生涯に、農学、芸術、宗教、宇宙、科学と多岐にわたる活動を行っています。記念館の近くに花巻新渡戸記念館があります。新渡戸稲造(1862-1933)は国際連盟の事務局次長を務めており、後のユネスコの設立に貢献しています。「われ太平洋の橋とならん」と最後まで戦争回避に奔走しましたが、カナダで客死しています。なお、皆さんも現在の5000円札の一つ前のお札でお目にかかっていると思います。宮沢賢治や新渡戸稲造の活動から、当時の状況を知ることができます。

閑話休題、津波から根本的に安全を確保するには高い場所に住む・逃げることです。明治・昭和の２大津波は沿岸各地の津波対策に大きな影響を与えています。明治の津波の後、義援金などを用いて集団で高地移転したようです。しかし、移転後、元の低地へ戻り、昭和の津波で再び被災したところも多くあります。これから紹介する田老地区と普代地区は高地移転でない対策を取った特殊な事例です。

図２：田老地区の津波浸水範囲

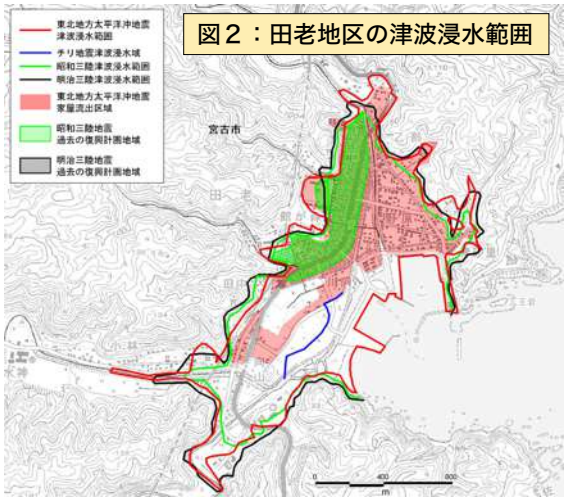


図3：田老の高さ10.65mの防浪堤

X字の堤防に挟まれた部分(正面)とX字の陸側(左側)ともに津波は堤防を越 えて侵入し、壊滅的な被害となった。

田老地区（図２）は現在は宮古市の一部となっていますが、田老町時代の2003年に津波防災の町を宣言しています。明治の津波の後に、義損金を基金として2mの盛土により宅地造成の計画をたてましたが、意見の不一致と資金難のため、道路沿いに約50cm盛土することに終わり原地復興となってしまいました。そして、昭和8年3月3日未明の津波で再び全滅しました。

この災害後、高地移転の意見もありましたが、500戸を収容する適地がありませんでした。当時、関口松太郎村長は3日午前7時消防士を陸路、宮古へ派遣し、食料や仮小屋設備、医師派遣を知事などに要請しています。翌日３月４日に村会を招集するなど積極的に動きました。翌昭和9年、標高10m余の津波堤防（防浪堤）の建造に、国や県が消極的な対応の中で、村費を投じて単独で取り掛かります。関口村長の復興にかける情熱と、村民の強い防災意識が当局の理解を生み、とうとう、村・県・国の三者が一体で取り組み、昭和54年に総延長2.4kmが完成しました（図３）。津波防災の町として、早朝6:30に避難訓練を実施し、明治の津波が15mであったことを踏まえ、避難所はその浸水域の外側に配置し、海岸付近の岩壁に昭和と明治のそれぞれの津波の高さを示しています。平成の津波の遡上高は14.6mで，全ての地区が浸水、流失も多数となりました。しかし、明治、昭和、平成の大津波での死亡率は、それぞれ50%、17.8%および4.0%となっており、田老の津波対策は着実に進んでいます。

図4：普代地区の津波浸水範囲

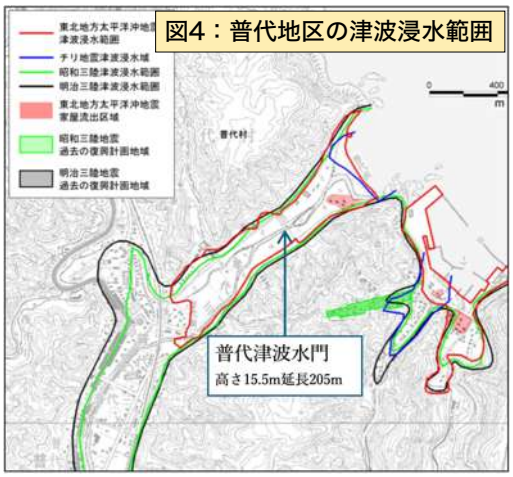


図5：普代の津波水門

普代村は北緯40度での最東端の村です。図４に示すように、普代川とその支川の合流部より少し上流に村の市街地があります。津波の遡上高は明治三陸地震で18.12m。昭和三陸地震13.0mでした。村での死者数は明治の津波で1010人、昭和の津波で135人でした。昭和37年に昭和の津波に対応すべく、市街地を守る津波堤防が完成しました。しかし、昭和の津波より大きい明治の津波で甚大な被害を被っている上、三陸鉄道の開通や普代駅の設置、防潮堤外側の宅地化などにより、昭和の津波を対象にした津波堤防では不十分だと和村幸得村長は考え、津波の侵入を効率的に防ぐことができる谷の狭窄部に津波水門を切望しました。和村村長は昭和の津波を経験し、阿鼻叫喚の惨状が原動力となって、「二度あったことは三度あってはいかん」と、「万里の長城」と呼ばれた田老の防浪堤（津波堤防）よりも高い標高15.5mの津波水門を反対の声がある中進め、昭和59年完成させました。40年続けた村長職を退任する時、「村民のために確信を持って始めた仕事は反対があっても説得してやり遂げてください」と置き土産を残しています。そして、平成23年3月11日東日本大震災が発生。この時の消防士の体験談です。防災無線が使えずサイレンが鳴らせず、遠隔操作で閉まるはずの水門の陸閘も閉まらず、直接水門まで行ってボタン操作で閉め，水門を越える津波から間一髪逃げることができたとのことです。おかげで普代村では津波対策施設に守られた範囲の死者および人家被害が無く軽微な被害で済みました（図５）。

田老・普代両地区では、明治・昭和の大津波の浸水範囲はほぼ平地部分に重なっており、ここを避けて高い場所に集落を移すことが難しいところです。堤防や水門などの施設はできても完全に守れないこと、即ち、「減災」を前提に、住民も含め訓練や避難は重要との認識で備えていたのです。仮にこの津波が数m高かったら両地区の津波対策施設を津波は越えていたでしょう。そして、東日本大震災の時に田老で起きたように、越流までの時間が稼げた事と、越流した津波が堤防の内側でプールのようになり、二階や屋根に登って救助されるということになったかもしれません。次にやって来る津波の高さはわかりません．防災施設には限りがあります。住民が万一に備えることが肝要です。

＜参考文献・関連情報＞

■ 宮古市災害資料アーカイブ。防潮堤が救った命、備えることで救えた命。
https://miyako-archive.irides.tohoku.ac.jp/tatakai/higashinihondaishinsai/2/

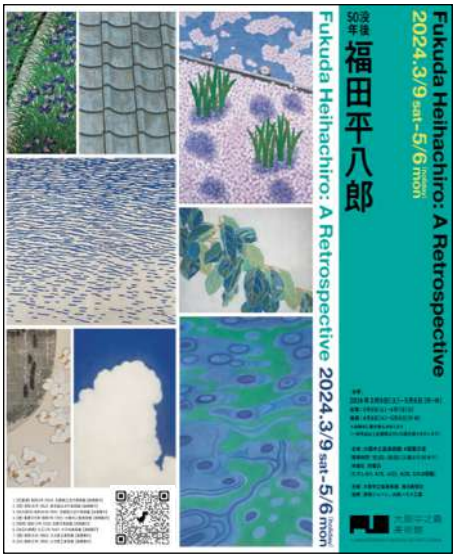
■ 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会第5回会合参考資料１。今回の津波における高地移転等を行なった地域の状況　https://www.bousai.go.jp/kaigirep/chousakai/tohokukyokun/5/pdf/sub1.pdf

■ いわて震災津波アーカイブ：災害に備え、闘ったものたち
https://iwate-archive.pref.iwate.jp/senjin/monotati/

■ いわて医師協だより：郷土の偉人の教え
https://www.ginga.or.jp/isikyo/tayori/91/kyoudo.html

■ 建設コンサルタンツ協会，守り，伝え，結ぶ「田老の防潮堤」
https://www.jcca.or.jp/kaishi/294/294_toku5.pdf

■ 広報ふだい
https://kunoheinsatsu.jp/kohofudai/2503/f2503.pdf



3/19発表の2024年桜開花予想によると、22日頃まで寒の戻りとなり、桜の開花は前回の予想より2、3日遅い傾向に。桜の開花、満開ともに全国的に平年並みか平年より早めとの事。全国トップは高知で20日に開花。東京は24日に開花、30日に満開予想。

4月カレンダー

▼移動図書館　第4水曜
和田　14:25~14:40　赤崎　14:50~15:05
田井　15:50~16:05　指杭　16:10~16:25

日	月	火	水	木	金	土
31日	1日	2日	3日	4日	5日	6日
書道作品展 小谷照峯・森本伯峯 書道教室（以命亭）						
チャリティーお花見会(以命亭) 大安	赤口	田井いきゞ百歳体操 先勝 下弦	赤崎いきゞ百歳体操 友引	先負 清明	仏滅	大安
7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日
書道作品展 小谷照峯・森本伯峯 書道教室（以命亭）						
赤口 ホタルイカ祭り	先勝	田井いきゞ百歳体操 先負 朔(新月) 皆既日食	赤崎いきゞ百歳体操 仏滅	大安	赤口	先勝
14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
友引	先負	田井いきゞ百歳体操 仏滅 土用の入り 上弦	赤崎いきゞ百歳体操 大安	赤口	先勝 穀雨	■但馬牛ローストビーフ作 友引
21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日
■春の装いフェア(牧公) 先負 13:30 ぶんちゃんラボ（図書館）	仏滅	田井いきゞ百歳体操 大安	赤崎いきゞ百歳体操 赤口 望(満月)	公民館だより発行 先勝	友引	先負
28日	29日	30日	1日	2日	3日	4日
■羊の毛刈り体験① 仏滅	昭和の日 ■羊の毛刈り体験② 大安	田井いきゞ百歳体操 赤口	赤崎いきゞ百歳体操 先勝 八十八夜 下弦	友引	憲法記念日 先負	みどりの日 仏滅

赤崎地区公民館HP　https://akasaki.site/
赤崎地区公民館へのお問い合わせ
〒669-6714 兵庫県美方郡新温泉町赤崎631番地
☎(0796)82-3678　公民館長　二階堂 寿江(にかいどうとしえ)
FAX　(0796)82-5563
電話(携帯)　090 8233 0843
Mail toshienikaido@icloud.com
メールアドレスQRコード➡